

香川高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	校外実習
科目基礎情報					
科目番号	5146		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建設環境工学科 (2019年度以降入学者)		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材					
担当教員	今岡 芳子				
到達目標					
・与えられた実習課題の遂行をとおして自主的な行動力や問題解決能力を身に付ける。 ・コミュニケーション能力や社会におけるマナーを身に付ける。 ・報告書作成能力を高める。 ・報告会での意思伝達能力を高める。 ・将来の進路選択における判断材料の一つを得る。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
技術系の文章の書き方を理解し、実習内容を報告書にまとめることができる。	実習内容を技術系の文章の書き方を用いて、実習報告書にまとめることができる。		技術系の文章の書き方を理解し、実習内容を報告書にまとめることができる。		実習内容を技術系の文章として、実習報告書にまとめることができない。
実習報告書に基づき、パワーポイント等のスライドを用いた発表を行うことができる。	実習報告書に基づき、パワーポイント等のスライドを用いた発表を行うことができる。また、発表に対する質問に答えることができる。		実習報告書に基づき、パワーポイント等のスライドを用いた発表を行うことができる。		実習報告書に基づき、パワーポイント等のスライドを用いた発表を行うことができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 D-1					
教育方法等					
概要	・与えられた実習課題の遂行をとおして自主的な行動力や問題解決能力を身に付ける。 ・コミュニケーション能力や社会におけるマナーを身に付ける。 ・報告書作成能力を高める。 ・報告会での意思伝達能力を高める。 ・将来の進路選択における判断材料の一つを得る。				
授業の進め方・方法	・長期休業中の2週間から1ヶ月間を利用して、民間企業や官公庁等において実務訓練を受ける。 ・受入先において担当者が割り当てられるので、その指示に従うと共に、与えられた課題に対して関係者とコミュニケーションをとりながら自主的に取り組む。 ・終了後は実習報告書を提出する。 ・実習報告会において発表し、参加者との質疑応答を行う。				
注意点	詳細な評価基準については、別途書面によって開示する。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス		
		2週	以下の内容を実施する ・校外実習先での実習活動 ・実習報告書の作成 ・実習報告会での発表及び質疑応答	・社会人に対して自己の意思を明確に伝達できる。 ・与えられた課題を自発的に遂行できる。 ・実習内容を報告書にまとめることができる。 ・実習報告会において実習内容を第三者に分かり易く説明できると共に参加者との質疑応答が行える。	
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			

	4thQ	8週		
		9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的 能力	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	前1,前2
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	前1,前2
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	前1,前2
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前1,前2
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	前1,前2
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	前1,前2
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	前1,前2
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前1,前2
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前1,前2
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	4	前1,前2
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	前1,前2
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	前1,前2
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	前1,前2
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	前1,前2
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	4	前1,前2
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	前1,前2
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	前1,前2
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	前1,前2
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	前1,前2
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	前1,前2
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	前1,前2
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	前1,前2
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているかを説明できる。	4	前1,前2
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	前1,前2
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	前1,前2
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	前1,前2
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	前1,前2
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	4	前1,前2
	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	前1,前2			
	企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4	前1,前2			
	コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	前1,前2			
	総合的な学 習経験と創 造的思考力	総合的な学 習経験と創 造的思考力	総合的な学 習経験と創 造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4	前1,前2
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	前1,前2
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	4	前1,前2
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	4	前1,前2

				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	4	前1,前2
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	4	前1,前2
評価割合						
			実習報告書等	発表会	合計	
総合評価割合			70	30	100	
評価			70	30	100	